

フラットパネルディテクタ (FPD) X線撮影装置を導入しました 被ばくの低減を目指しています

画像センター

昨年につき、(社)日本損害保険協会寄附金（自賠責運用益拠出事業）による交通災害等救急医療機器整備事業の補助を受け整備しました。

これにより、当院の一般撮影（レントゲン検査）は完全 FPD 化されました。

FPD とは

身体を透過した X 線を受取り、そのままデジタル信号に変換し画像を作製します。

これまで行われていた現像（フィルム）や読取処理(CR)が必要なく、短時間（数秒）で画像が得られます。撮影室にも画像確認用のモニタを設置しています、是非そのスピードを体感してください。

また、FPD は高感度で、より少ない X 線で検査が可能になりました。



現在、3～4割の被ばく低減は達成していますが、5割低減（当院比）を目指してさらに調整中です。

この他にも、FPD は高精細であり、これまでより鮮明な画像を提供することができます。

今回、FPD 長尺撮影装置も導入しました。

これは、脊椎全長（頸椎から腰椎）下肢全長（股関節～足関節）をひとつの画像として提供します。脊椎側弯症、変形性膝関節症等の検査に使用します。



この FPD システムは、交通災害等救急医療機器整備事業の補助で整備され、交通事故等の重症患者さんや全身症状の悪い患者さんの撮影にその能力を発揮します。

従来の CR システムでは、カセットを患者さんの下に敷き、撮影後取出して読取り装置に挿入する必要がありましたが、

FPD システムではその必要がないため、全身撮影や多部位の撮影ではカセットを敷いたまま、すこしずつ移動して撮影が可能です。このことは動けない患者さんの負担を大幅に軽減することが可能です。

これからも、画像センター一同低被ばくを心がけ、高画質な画像と医療安全を提供したいと思います。